

明石市 SDGs未来都市計画について

1 SDGs未来都市について

地方創生に向けたSDGsの取組を推進するため、内閣府がより優れた取組を提案する自治体を「SDGs未来都市」として選定しています。

本市は2020年(令和2年)7月に未来都市に選定されました。

概 要	SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの魅力や将来性をSDGsの枠組みを使い国内外に発信し、ブランド力を高め、移住者や交流人口、企業、投資の呼び込みに寄与 ・「未来都市会議」等、SDGs未来都市間での先進事例等の情報交換 ・地方創生推進交付金の申請上限事業数が1事業増(4事業→5事業) ・SDGsに関連する補助金等について選定の際に考慮
選定数	154 都市 ※2024年度までに210都市選定予定
実 績	2022年:30 都市 2021年:31 都市 2020年:33 都市 2019年:31 都市 2018年:29 都市

2 明石市SDGs未来都市計画について

(1) 計画策定の趣旨

SDGs未来都市に選定された自治体は、3か年のSDGsに関する取組を具体化したSDGs未来都市計画を策定し、その後も3年ごとに計画を策定する必要があります。

(2) 第1期計画の概要

- ・策定時期 2020年8月
- ・計画期間 2020年度～2022年度
- ・内 容 [資料 2-2](#)のとおり
- ・進捗評価
 - ・計画期間が新型コロナウイルス感染症の拡大時期と重なったことから、数値目標の達成が難しい項目もあります(合計特殊出生率、労働力人口など)。
 - ・一方で、持続可能なまちの基礎である人口の増加や新たなSDGsに関する取組の実施など、一定の成果をあげることができたと考えています。
 - ※KPIの達成度は[資料 2-3](#)のとおり
- ・今後の課題
 - ・近年激減しているマダコ・イカナゴの漁獲量を回復するための豊かで美しい海づくり
 - ・人口増加に伴うさらなる待機児童対策

3 第2期SDGs未来都市計画(素案)について

(1) 計画策定の方向性

本年3月に策定した「あかしSDGs推進計画(明石市第6次長期総合計画)」及び「あかしSDGs前期戦略計画(明石市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期))」の考え方やKPI、施策等を反映します。

(2) 計画の概要([資料 2-4](#)) ※計画の素案は[資料 2-5](#)のとおり

計画期間	2023年(令和5年)4月から2026年(令和8年)3月末まで
構成	<p>①将来ビジョン 地域の実態、2030年のあるべき姿、2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット</p> <p>②自治体SDGsの推進に資する取組 自治体SDGsの推進に資する取組、情報発信、普及展開性</p> <p>③推進体制 各種計画への反映、行政体内部の執行体制、ステークホルダーとの連携、自律的好循環の形成</p> <p>④地方創生・地域活性化への貢献</p>
主な内容	<p>・2030年のあるべき姿 SDGs未来安心都市・明石～いつまでも すべての人に やさしいまちを みんなで～</p> <p>・まちづくりにおける三側面の方向性 SDGsの17の目標を包含する経済・社会・環境の三側面のまちづくりを総合的にバランスよく取り組むこと、さらには相乗効果を生み出せるように取り組むことで、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるやさしいまちを実現する。</p> <p>・重点的な施策 上記のまちづくりの方向性につながる5つの柱を設定し、施策を展開する。</p>

(4) スケジュール

年 月	内 容
2022年11月	・あかしSDGs推進審議会で意見聴取
〃 12月	・総務常任委員会で報告 ・内閣府へ素案提出
2023年1月	・パブリックコメントの実施
〃 3月	・総務常任委員会で報告 ・SDGs未来都市計画の策定・公表